

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

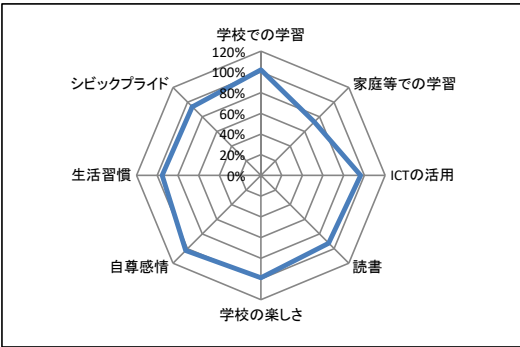
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国に比べ、言葉の特徴や使い方に関する問題や記述式問題の平均正答率が低い。短答式・記述式問題の無回答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国との差は、どの領域・問題形式においても同程度である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国との差は、どの領域・問題形式においても同程度である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに対して全員の児童が肯定的な回答をしている。一方で「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対して肯定的に回答した児童は約84%である。役割やめあてをもたせ、役割を果たしたときやめあてを達成したときに、その頑張りを認め、価値付けるといった自己肯定感を高めるための取組が必要である。 ・ICTの活用に関する問いに関しては、肯定的に回答した児童の割合が全国を上回る設問が多かった。「ICTを活用しながら学習を楽しむこと」「画像や音声などを用いてスライドをつくり自分の考えや意見を伝えること」といったことはできるようになっている。今後は「情報を収集する」「分からないときにすぐに調べる」という自分の必要な時にすぐに活用することができるような環境を整えることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・北九州市教育委員会が示している「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」の活用・ICTの活用を主題研修に位置付け、児童が「わかった」「できた」と感じることができる授業づくりを行う。
- ・国語科における漢字を書くこと、算数科における「単位量のいくつ分」の考え方のような各教科における基礎・基本の内容が身に付く指導の仕方を工夫する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「学校だより」や「ほげんだより」を活用し、規則正しい生活習慣の大切さを家庭に伝えるとともに、学級指導や保健指導を通して児童に規則正しい生活習慣を身に付けることの大切さについての指導を続ける。
- ・本年度、中学校区で「あいさつ」「黙働」「ICT活用」に取り組むなど、9年間を見通した教育活動に取り組んでいる。生活習慣等の改善についても校区で連携をし、小中で一貫した取組を推進していく。